



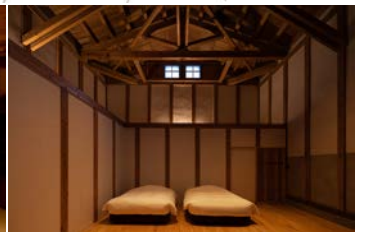
NIPPONIA白鷹 源内邸

設計監理: 井上貴詞建築設計事務所

母屋外観。フロント棟としてロビー・ラウンジと2つの客室を設ける。外壁は古色に合わせて再塗装している



▲改修前



山形県白鷹町の旧家を古民家ホテルにリノベーション。奥山源内家は江戸時代から続く200年の歴史をもち、3000坪に及ぶ敷地には母屋のほか5棟の蔵が点在している。遠く西方には朝日連峰が横たわり、最上川もすぐ近くを流れる。西山から吹き下ろす北西風から家々を守るように敷地西には先祖が植えた大きな屋敷林が残り散居集落を形成している。30年ほど前に奥山家から人手に渡ってからは、広大な敷地に管理の手が行き届かず、敷地を囲む板塀もほぼ失われ荒れた状態になっていた。

近年所有者となった県内の経営者が、地域振興のために有志を募り、共同でまちづくり会社を立ち上げ、この歴史的資源を活用して地域に新たな生業をつくることで、景観の再生や文化の継承につなげようという開発計画をスタートさせた。事業の実現にあたっては、近隣の住民説明会で地域の声を聞いたり、片付けワークショップで県内外から関心を持つ人を集め一緒に作業を行ったりすることで、地域コミュニティと連携しながら開発を進めていった。コロナ禍と並走しながらのホテル開業であった。

広い敷地内には母屋を中心に、明治から大正にかけて建てられた5棟の蔵を含む7棟の建物が点在している。各建物の独立性を活かしながら、各室には現代的な水回りを整備し、計8室の客室をつくり出した。共用部として母屋をロビー・フロントに、味噌蔵をレストランにした。200㎡を超える母屋は内装制限がかかるが、自動スプリンクラー設備と自動火災報知設備の設置により緩和され、元の建物の壁や天井仕上げを活かしている。また建物のみならず板塀の再生や傷んだ門の修繕、庭木の保全や水循環の復活にも注力した。失われつつある風景の中で、地域の核ともいえる場の再生を図り、新たな雇用を生みながらこれからの持続可能な地域モデルとなり周辺エリアにもその価値が広がっていくことが期待される。

▲改修後 左からフロント棟(旧母屋)内観/レストラン棟(旧味噌蔵)外観/レストラン棟内観/客室棟(旧米蔵)内観

建物概要
 建物名称: NIPPONIA白鷹 源内邸
 発注者: (株)ukitam
 用途: ホテル
 所在地: 山形県西置賜郡白鷹町大字浅川
 工事種別: 改修(用途変更)
 設計監理: (株)井上貴詞建築設計事務所
 施工: 那須建設(株)

構造階数: 木造2階建
 敷地面積: 8247.54㎡
 建築面積: 計707.04㎡
 延床面積: 計917.96㎡

設計期間: 2019年12月~2020年9月
 工事期間: 2020年10月~2021年3月